日本少年野球連盟大会規定

1　チームの登録選手（中学生の部）は、11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）とする。
2　出場選手は、その大会の登録締め切り日現在において連盟登録済みの者に限る。
3　審査証は当年度発行のものとする。
4　オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることが出来る。チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。 もし、各種登録証（チーム責任者、監督、コーチ）および 審査証（選手）を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れない。ただし、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上でベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
5　組合せの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。
6　監督（背番号 60）、コーチ（背番号 50）は選手と同じユニフォームを着用すること。
7　試合開始時刻 60 分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表 5 部を、投球回数記録副表 3 部（大会初戦時は、直前大会参加報告書）を大会本部に提出のうえ、所定の審査を受けなければならない。
8　オーダー表交換時に、両キャプテンのジャンケンにより先攻、後攻を決める。
9　試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときは、球場責任者と責任審判委員が協議して、没収試合を宣言することができる。
10　試合方式など（中学生の部）
(1)　各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間を超えた場合、新しいインニングに入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は、最終回時点で出場していたメンバー全員による抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
(2)　4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回表終了時） 10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
(3)　7 回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。試合開始から 2 時間を超えては新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。　（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
11　投球制限について
(1)　球数による投球制限を採用し、古都大会は中学生の部ジュニア大会の扱いで試合を開催する。
(2)　日程の変更（地区大会を含む）等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」を次大会の最初の試合日、次大会主催者宛に提出しなければならない。
12　タイムについて
(1)　監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。タイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。）
(2)　守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
(3)　内野手（捕手を含む）が 2 人以上投手のところに行った時も 1 回に数える。
(4)　指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30 秒以内」とする。
13　1 インニングで同一の投手に対して指示、伝達が 2 回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニング入れば、再び投手として登板することができる。
14　審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
15　監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)
16　２塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17　ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18　投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返す、または、送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19　各チームは同色のヘルメット 7 個以上、捕手の規定防具　［マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ（一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く)］２組を備えること。
20　ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

21　捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
22　グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
23　ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
24　光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25　試合前のシートノックは行わない。

【参　考】
野球規則 7.01(4)
7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。
[注] 我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。
(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

＜タイブレーク実施細則＞
1　特別規則
(イ) 中学生の部は 7 回あるいは試合開始から 2 時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、 二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

2　チームおよび個人記録
チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。
(イ) 投手記録
・ 規定により出塁した 3 走者は、投手の自責点とはしない。
・ 完全試合は認めない。
・ 無安打、無得点試合は認める。
(ロ) 打撃成績
・ 規定により出塁した 3 走者の出塁の記録はないものとする。 ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
・ 規定により出塁した 3 走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

投球制限ガイドライン

ジュニアの部大会

1　中学生ジュニアの試合での登板は以下のとおり制限する。

① 1 日最大 80 球とし、連続する 2 日間で 120 球以内とする。
連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は、3 日目は投球を禁止する。
また 3 連投（連続する 3 日間）する場合は、1 日（1 試合）の投球数を 40 球以内とし、
4 連投（連続する 4 日間）は禁止する。

② 大会中は 1 日 80 球以内とし、翌日投球を休めば、翌々日には 80 球の投球を可とする。

③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打者終了までは
投球を認める。制限数を超過した球数はカウントしない。

④ 連続する 2 日間で 80 球を超えた投手、並びに 3 連投した投手は登板最終日並びに
翌日は捕手としても出場できない。（投手として登板できない場合は捕手としても出場できない）

⑤ ボークは投球数としない。

⑥ 雨などノーゲームになった場合は投球数にカウントする。

⑦ 1 年生が投球する場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮すること。

共通事項

1　ダブルヘッダーの場合で 2 試合に登板した場合は連続 2 日間投球した事とする。
また 1 試合のみ投球した場合は 1 日の投球とする。